

旅への思い

——芭蕉ばしやうと『おくのほそ道』——

平安時代
1000頃 『枕草子 <small>まくらのそうし</small> 』
1008頃 『源氏物語』
12c 『今昔物語集 <small>こんじゃく</small> 』
1185 平家滅亡 <small>めつぼう</small>
鎌倉～室町時代
1205 『新古今和歌集 <small>こきん</small> 』
1212 『方丈記 <small>ほうじょうき</small> 』
1235頃 『小倉百人一首 <small>おぐら</small> 』
13c頃 『平家物語』
1331頃 『徒然草 <small>つれづれぐさ</small> 』
1338 室町幕府開く
1600 関ヶ原の戦い <small>せきがはら</small>
江戸時代
1603 江戸幕府開く
1685 生類憐れみの令 <small>しょうるいあわ</small>
1694頃 『おくのほそ道』

おくのほそ道 日本の紀行文学を代表する作品の一つ。行程約二千

四百キロメートル、旧暦きゆうれきの三月二十七日から八月二十一日まで

(現在の暦こよみでは五月十六日から十月四日まで)の、五か月にわ

たる旅を題材として書かれている。

